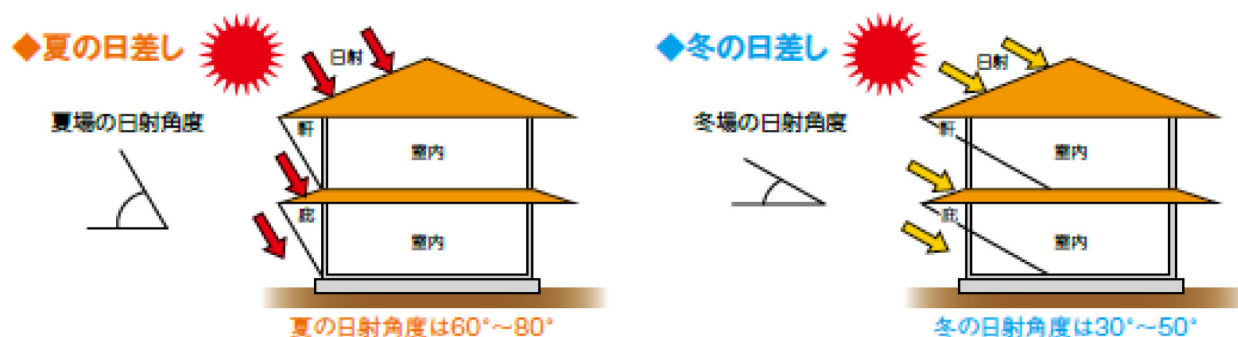


住まいを守る軒の役割

従来、日本の木造住宅では、軒や庇の出幅を大きく取るのが一般的でしたが、現代ではモダンな造りやコスト削減の影響から、軒の出幅が狭くなり軒ゼロと言う住宅も出始めています。外観はシンプルになりますが、軒本来の大切な機能を失ってしまいます。雨の多い日本で軒は住宅の耐久性に大きく影響します。軒は夏の直射日光を遮り冬の日差しを確保します。

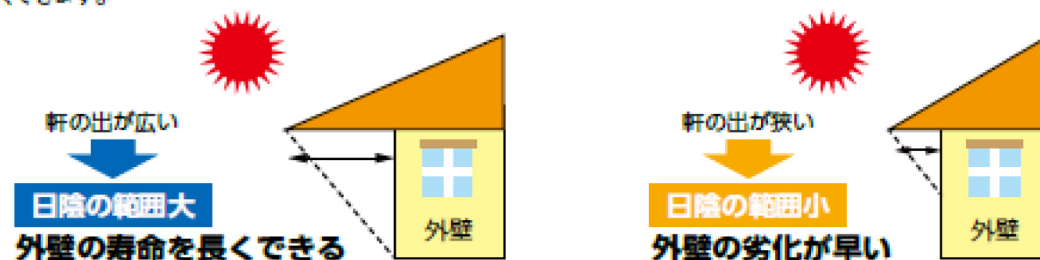
①日差しの調整

夏は、軒や庇が無いと窓ガラスや外壁に直接日光が当たることになり、余計に室温が上昇します。軒を設けることで影が室内への日射熱を遠ざけてくれます。エアコンの冷房温度を1℃上げると、約10%の省エネになると言われています。冬は、太陽高度が下がるため入射角度も低くなり軒の出が広くても暖かい日差しを遮ることが無いので室温の低下を防ぎます。夏の日差しを遮り、冬の日差しを取り入れることで、快適な環境が維持できます。



②外壁を保護してくれる

軒の出が狭い場合、外壁に直射日光が当たり外壁の劣化を加速させてしまいます。軒の出を広く取ることによって外壁に直射日光が当たる面積が減り紫外線や雨水の影響を受けにくくなり、外壁を保護することになり劣化を抑え維持管理費用も少なくて済みます。



③雨の吹込みを防いでくれる

軒は窓の上にあります。雨の降り方は上から9割、横から1割と言われ、軒を設けることで雨除けの役目を果たし窓から雨水の吹込みを防止する機能もあります。

④雨漏りリスクの軽減

あまりに軒の出が狭いと、外壁や窓枠への雨掛かりによって、外壁面や防水コーキング等の劣化や開口部からの雨漏りの危険性が高まります。軒を設けることで雨水の侵入を抑えることができます。

